



注目の企業2社が連携してめざす “人材育成ソリューション”とは

人材育成ソリューション『Generalist®/LM』を提供する東芝 インダストリアルICTソリューション社と、映像配信ソリューションベンダーのメディアサイトがこのほど連携し、企業の人材育成の新しい形を提案するという。2社の連携によって人材育成ソリューションはどう変わるのか、メディアサイトの南常治氏と東芝 インダストリアルICTソリューション社の三田村律子氏が語り合った。

南 常治氏

2001年メディアサイト株式会社入社、雇用能力開発機構の京都「しごと館」開設に際し映像による職業紹介データベースシステム構築に参画。大学・公共機関及び一般企業向け教育用映像コンテンツの制作・インターネット配信・サーバー管理システムのマーケティング及びコンサルティング業務に従事。2012年4月執行役員営業部長に就任、2015年6月取締役役に就任。

講義を映像コンテンツ化

三田村 今後パートナーとして連携していくメディアサイトは、講義型映像コンテンツの制作から配信までのソリューションを提供している企業です。

南 もともと米国本社は、カーネギーメロン大学での産学官共同研究開発プロジェクト「インフォメディア」における研究開発成果を技術の核に製品開発し、映像を検索するエンジンをつくっていたのですが、コンテンツを検索するだけでなく、新たなコンテンツをつくり出していく製品を開発しました。当社は米国メディアサイトと日本企業のジョイントベンチャーとして、2000年に設立した企業です。

三田村 メディアサイトのシステムは、セミナーや研修などで行われている講義をそのまま映像のコンテンツ化し、配信・管理できる点が大き

な特徴ですね。

南 はい。例えば、大学の授業や企業の研修などを可搬型のレコーダーで収録し、内蔵されたエディター機能で簡単にコンテンツ編集ができます。また、サーバーのソリューションも持っていますので、ユーザー管理やセキュリティの設定、ライブ配信などに対応できますし、クラウドサービスのノウハウも持っていますので、コンテンツをつくって、管理して、配信できる——これを一貫で行えることが当社のシステムとしての優位性だと思います。

三田村 講義型コンテンツは、臨場感が魅力ですよ。

南 当社のコンテンツは、映像と、そこで使われている資料が同期している点が大きな特徴です。例えば、ある研修をコンテンツ化した場合、講師が映る画面と、そこで使用される資料の画面の2画面が再生されるので、現地で見ているような臨場感があります。

三田村 そうした仕組みを、当社の企業内大学『Toshiba e-University』の「人間力講座」で活用させていたのがそもそもの始まりです。「人間力講座」とは、各界の指導者や専門家の人柄や志に触れ、人としての徳やリーダーとはいかなるものかという気づきを得るための講座です。ですから、その方ご自身の声を聞くことができ、それを教材として学べる仕組みが必要でした。そうした仕組みを探しているときに出会ったメディアサイトのサービスは、ライブ配信が可能で、それをその後オンデマンド教材にできるという点が魅力的でした。

連携により 進捗管理～評価まで

南 メディアサイトのサービスは、世界65カ国1600以上の大学で導入していただいています。映像を使って生中継での授業を行い、資料も同期でき、スケジュール管理も可能で



南 常治氏

三田村 律子氏

すので、大学の授業との親和性が非常に高いのです。また、非常に多くの企業にも活用していただいております、特に企業内教育で活用していただくケースが多いですね。他には、グローバル企業が世界中にトップのメッセージを配信する、映像を使ったイベントで活用するといった使い方もされています。ただ、当社のシステムだけでは管理の部分でできることが限られているのも事実です。例えば、誰が映像のどの部分をどのくらい見たかといったことは分かるのですが、もっと細やかな管理を行うことで、さらに企業の人材育成に貢献することが可能となります。

三田村 Generalist / LMとメディアサイトのサービスが連携することで、細やかな管理や運用が可能となります。例えば、Generalist / LMには理解度確認テストやアンケートの機能がありますので、メディアサイトの臨場感溢れる講座を視聴した後で、その研修の効果測定をGeneralist / LMで行うことが可能です。また、集合研修とのブレndingも効果的ですし、反転学習に活用することもできます。反転学習では、事前に研修やセミナーで行う講義を配信し、受講者が自分のペースに合わせて学習しながら当日までに準備をしておき、集合研修の当日は演習、実習、討議といったことに時間を割くことができます。

南 映像の利点は即時性があるところ、それと1つのテーマを周知させることが得意な点です。ただし

効果測定は難しいですし、映像だけでは伝えきれないものもあります。Generalist / LMというeラーニング、集合研修の実施、運営管理、施設管理、分析、評価などトータルで人材育成を支援するパッケージと当社のサービスを連携させることで、新しい価値を提供できると思います。

進化する人材育成

三田村 LMS (Learning Management System) も進化していて、今は私たちがLPMS (Learning Portal Management System) と呼んでいる、一人ひとりに合った情報を提供するポータル機能を有したものになってきています。しかし、より個人に最適なパーソナライズされた学びの場を提供するためには、良質なコンテンツを相当数用意しないと難しいと思います。弊社の社内研修でも人間力講座、寺子屋（社員が社員を教える独自の仕組み）の講座を含めて約400の講座を揃えています。よりパーソナルな学びを提供するには、多くの講座を効率的に用意できる仕組みが必要だと考えていました。メディアサイトの“あらゆるコミュニケーションを映像化して教材とする”技術やノウハウは、ラーニング・ポータルのパーソナライズにつながっていくものだと思います。

南 BYOD (Bring Your Own Device) の流れを考えても、自分の端末で手軽に映像を見てもらう学習方法は今後さらに発展していくと思



三田村 律子氏

2001年より教育ソリューション担当として従事。製造業、流通業等の民間企業や、官公庁向けの人材育成ソリューションGeneralist/LMの提案業務に携わる。現在は、商品企画も併せて担当。

います。その中で、より自分に最適なコンテンツを選ぶニュースのキュレーション・サイトのようなものをつくりたいと考えています。

三田村 研修の内製化も今の人材育成の大きなテーマだと思いますが、講師の確保が難しいという声も聞きます。そうした時にもメディアサイトと連携したGeneralist / LMを活用すれば、キーとなる講師の方に講演をお願いして、それを一斉に配信するという研修の展開方法、または社内講師となるリーダーの方に講演を理解していただき、各リーダーに講義を真似して実践していただく2つの研修の展開方法が可能です。今回の連携で、その企業にとって必要な人材育成の新しい形をご提案できると思います。

さらなる進化に向けて

南 今後の課題としては、例えば1時間のコンテンツをただ見せるだけではなく、その中でいかに検索をさ



東芝グループ10万人の利用をはじめ、5,100社、580万人以上が利用し続ける
国内シェアトップクラスのLMS

せて必要などところを見せるか、その視聴統計の動向を探りながらデータを次に活かしていくかということだと思います。現状でも1時間のコンテンツの中で必要な10分間だけを抜き出してみることはできますので、そのデータをGeneralist / LMと連携したいと考えています。どうという言葉が検索されて、どの部分が見られているのか分析できるので、データ分析を繰り返すことで、より個人にフィットするコンテンツを提供していきたいと考えています。コンテンツをたくさん用意するだけでなく、その人の属性に合わせてどう提供するか、データ分析に注力していきたいですね。

三田村 そうですね。それによってLPMSとしての使いやすさが向上してくると思います。当社でも「RECAIUS (リカイアス)」という音声認識、音声合成、翻訳、対話、画像認識、意図理解、状況理解などを融合したメディアインテリジェン

ス技術を持っていますが、教育のソリューションとの親和性は高いと考えています。

南 当社でも音声認識したテキストデータを検索する、ピンポイントで再生するといった技術を持っていますので、Generalist / LMとの今後の連携が楽しみです。例えば、視聴者の理解を助けるため映像に字幕を出すには音声認識の精度をかなり高める必要がありますが、そのコンテンツを学びたい人が検索をするためのメタ・データとして音声認識を使う分には問題がないレベルになっています。

三田村 今回の連携は、まずはGeneralist / LMの中にメディアサイトのテンプレートを用意して、リアルタイム配信も見られる、教材も見られるというところから始めていきます。

南 動画配信プラットフォームを持っている企業もありますし、LMSを提供している企業もありますが、両者

がこれだけ大々的に連携する例はなかったと思います。生の集合研修ができて、オンデマンドでもできて、どんな端末でも視聴できるデバイスが実装できる、その受講管理は全てGeneralist / LMができる——いろいろな選択肢があります。これらを全て導入してもいいですし、一部分だけを使っていたいただいても構いません。これまではLMSを導入すると大がかりになっていたところが、少しハードルが下がっていくことが期待できます。

三田村 この新しいサービスは、既に東芝グループ内で使用していません。自分たち自身もユーザーなので、実際に試したものを、自信を持ってご紹介していきたいと思っています。

お問い合わせ先
株式会社東芝 インダストリアル ICTソリューション社
HRMソリューション技術部
〒212-8585
神奈川県川崎市幸区堀川町72番地34
TEL : 044-331-1191
E-mail : INS-Generalist@ml.toshiba.co.jp
URL : <http://www.toshiba.co.jp/cl/sol/gene/>